

## J.S.バッハの作品

J.S.バッハの《無伴奏ヴァイオリンのためのソナタとパルティータ》は、3 曲ずつのソナタとパルティータで構成されており、1720 年の日付がある清書譜が残されているため、おそらくそれ以前、バッハの器楽曲の名品が生まれたケーテン宮廷楽長時代前半の所産と考えられている。

### 「無伴奏ヴァイオリンのためのソナタ 第 1 番」

3 曲のソナタはいずれも 4 楽章構成で、「緩／急／緩／急」の教会ソナタ形式。第 1 番の第 1 楽章アダージョは、荘重な雰囲気の中重音を多用した旋律が淀みなく流れる。第 2 楽章にはバッハの真骨頂ともいべきフーガが置かれ、牧歌的な第 3 楽章シチリアーナ（シチリアの民俗舞曲）を経て、第 4 楽章プレストでは単旋律が無窮動的に疾走する。

### 「無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ 第 3 番」

パルティータ第 3 番には軽快で明るい舞曲が並ぶ。第 1 楽章プレリュードは華やかに始まり、第 2 楽章ルールでは抒情的な旋律が美しく歌う。第 3 楽章ガヴォット・アン・ロンドーはお馴染みのメロディ。第 4 楽章の親しみやすい第 1 メヌエットに、第 5 楽章の柔らかな雰囲気第 2 メヌエットが続く。第 6 楽章は軽やかなブルーレ、第 7 楽章は快速なテンポのジークとなり、組曲全体を締めくくる。

### 「無伴奏ヴァイオリンのためのソナタ 第 2 番」

荘重な旋律が歌われる第 1 楽章グラーヴェは、フーガに先立つ序奏の役割を果たす。三重音や四重音が用いられた第 2 楽章は、起伏に富んだスケールの大きなフーガ。第 3 楽章アンダンテは、重音を縫うように進む旋律が美しい。第 4 楽章アレグロは、16 分音符の速いパッセージから繰り出される旋律が、エコーのような響きを創り出す。

### 「無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ 第 2 番 より シャコンヌ」

「シャコンヌ」は、J.S.バッハ《無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ 第 2 番》の終楽章（第 5 楽章）に置かれている。バッハの無伴奏作品のなかでも屈指の名曲であり、単独で取り上げられる機会も多い。

今回演奏される、2 人の邦人作曲家の作品は、直接あるいは間接的にバッハの音楽を素材としており、成田・梅本・山根 3 人による現代音楽ユニット「mumyo (ムミョウ)」の「ゴシック・アンド・ロリータ」公演で発表された。

山根明季子の作品は、無伴奏パルティータ第 1 番のテンポ・ディ・ボレア（ブルーレ）をもとに西洋の伝統と現代日本のストリートを重ね合わせて反復装飾を施した「黒いリボンをつけたブルーレ」、リボンという少女的アイコンを通して西洋音楽の崇高さの裏側を暴き出した「リボン集積」、加速する資本主義時代の肉体の記憶をテーマに無伴奏ソナタ第 2 番のアレグロをコラージュした「リボンの血肉と蒸気」、

建築物のようなフーガを解体してストリートファッション風に裁断した「パニエ、美学」の4曲。

梅本佑利の作品は、ルイス・キャロル『不思議の国のアリス』で用いられた言い回しからイメージされた世界観をもとに「装飾（音）」について再考する。溶けるケーキ＝バッハのイメージで微分音的「装飾」を施した「**Melt Me!**」（私を溶かして!）と、装飾音符が被装飾音の原型を留めないほど過剰に扱われる「**Embellish Me!**」（わたしを装飾して!）の2曲。